第 2012-03 号

恵みと真理のニュース

2012 年 2 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　円形脱毛を治して下さいました。

私は山村で生まれ育ちました。その町には教会もなく、福音を伝えてくれる人もいませんでした。それで私はイエス様に関する話は聞いたこともありませんでした。大人になって不信仰の男性と結婚しました。そして子どもたちを育ちながら一生懸命に生活しました。しかし、体は疲れていて心むなしかったです。
1990年ごろ、子どもたちの教育のためにお姉さんに助言を得て、アンヤン(韓国の地名)へ引っ越しました。そのある日、恵みと真理教会の長老さんに伝道されました。疲れた心を少しでも慰められるかなと思って、2003年から恵みと真理教会を通い始めました。約1年間は主日礼拝だけ捧げましたが、その後からは区域長たちの勧めで水曜礼拝、区域礼拝も捧げるようになりました。しかし私の信仰は大きく成長していませんでした。旦那も教会に通うことになりましたが、形式的に通うだけでした。私たち夫婦は教会を通いながらも一足は教会に、もう一足は世の中に置いて生活をしたのです。
たまに我慢できない頭痛でとても辛かったりしました。3年間MRIを二回も撮影していろんな角度から精密検査をしましたが、頭痛の直接的な原因は明らかになっておらず、ただ神経性頭痛だと言われるだけでした。頭痛と一緒にうつ病、不眠症まで私の日常生活がとても不安定で毎日大変でした。さらに、2011年の春から夏にかけて神経性円形脱毛までできました。頭のてっぺんの周りは頭皮が見えるぐらい髪の毛が抜けていました。外出するときにはそれを隠すために太いヘアバンドをしました。自分の姿を鏡の映してみるととてもみすぼらしい頭が一目に入ってきて、それがとても大きなストレスでした。どうしたらこの現実から離れられるか考えました。それで寝る前に聖書を読み始めました。驚くことに、私に変化がおきました。一番変わったことは、礼拝時間にメッセージがよく耳に入ってくるようになったことです。ある日は、私の心の中でおきている葛藤と悩みに関して当会長牧師先生のメッセージの中で深く悟らし、明確な答えを提示してくれました。礼拝の中で恵まれ、毎週の主日礼拝を期待するようになりました。そしてメッセージの時間を楽しみにしました。いつからか心には平安が訪れてきました。夜中眠れない日も少なくなり、熟睡することができました。よく眠れるようになったので頭痛もとてもよくなりました。少しずつ健康も回復してきました。うつな考えがなくなってうつ症状も弱まってきました。そのあと、急激に神経性頭痛とうつ病が治まって、きれいに治りました。ハレルヤ!このことをとおして神様が私と共におられることを深く感じることができました。キリストイエス様の中で神様の平安が私の心と考えを守って下さいました。不安でたまらなかった私の心が少しずつ満たされてきました。
2011年8月、引っ越しをするためにいろんなところを見に行きました。教会の地聖殿があるところへ引っ越しすることができました。近くに住んでいたの首席区域長の導きでその地聖殿に通いました。信仰生活をするためにもとてもいいところでした。他のところで暮らしたときよりとても平安でしたので、神様の導きに感謝しました。一生懸命に礼拝生活をしながら恵まれて、私の心の欲もなくなってきました。その後、区域長の務めに任じられました。まだ足りないですが、感謝の気持ちで頑張って働きたいと思います。
治療の神様が私を溢れんで下さり円形脱毛でとても辛かった心から解放させて下さいました。6ヶ月以上も薬を飲みながら、ぬりながら切なく祈ったら去年の9月、脱毛を治して下さいました。黒い髪の毛が出て頭皮が見えないぐらいになりました。今は太いヘアバンドをしなくても外出できるようになりました。神様がもっと早めに私を呼んで下さいましたが、愚かな者でもっと一生懸命に信仰生活をすることができませんでした。しかし神様は私の疾病を治して下さって、神様の中で完全に立つことができるようにして下さいました。神経性頭痛、うつ病、そして円形脱毛のすべての原因は私の心の問題でした。神様は私を溢れんでくださって、私の心の病気をすべて治して下さいました。また、神様の平安で満たして下さいました。今はすべての疾病がなくなりました。このすべてのことを成し遂げられた神様に感謝します。
“力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。”この箴言の御言葉のように毎瞬間、心を守り、神様に栄光を捧げる生活ができることを願っています。これからは私を救って下さり、治して下さった神様を誰にも伝えます。また、信実な心で天国を望みながら神様を仕えます。

［信仰コラム］　恵みとはなんなのか、

“…確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。”（コリントⅡ6：1-2）

一般的に使う‘恵み’という言葉は‘他人から自然にもらうありがたい恵沢’を意味します。しかし‘恵み’という言葉が神様と関連することによって、もっと豊かで感動的なメッセージを含みます、聖書の厖大な内容を圧縮すると‘神様の恵み’という言葉になります。これから‘神様の恵み’について考えます。
第一、宇宙満物は人に与えてくれた神様の恵みです。人が生きていく中で必要なすべては神様の恵みで与えられました。人が被造される前に、そのすべてを用意して下さいました。神様が造った世界の中で暮らす人々は神様の恵みの中で暮らしていることを悟るべきです。
第二、自然の法則は神様が与えて下さった恵みです。もし、神様が自然の法則を与えなかったらば、人類は滅絶したかもしれません。想像できないぐらい細かな秩序と美しさ、多様さを維持させる宇宙の中の法則がなかったら、生命体が生きることはできなかったかもしれません。
第三、イエスキリストからの救いは神様の恵みです。救いはイエスキリストの聖肉身と購いの苦難、死、そして復活をとおして与えられました。神様のすべての恵みはイエスキリストの中で、イエスキリストによって与えられます。この恵みを知らないまま暮らすことは、一番の悲劇です。神様の怒り、サタンの権力、律法の呪いから私たちを救って下さいます。魂を天国に導いて下さいます。肉身が命の復活を得るようにして下さいます。また、病気になることなく、弱まらない、くさることのないように美しくて、栄光のある体にして下さいます。これが救いであります。
第四、迫害と苦難の中でも喜びをもって耐えるように、勝利するようにして下さる神様です。使徒パオルがピリピの監獄とローマの監獄で見せた姿は、なまなましい証拠であります。神様の恵みがとどまったため、夜中ピリピの監獄でもっと大きな声で賛美しました。また、最後にローマの監獄に入れられたときも、外で自由にしているピリピ教人たちに“いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。”という歓喜の手紙を送りました。
第五、弱い者が強くなり、無能な者を有能にして下さる神様の恵みです。大祭司の庭でイエス様が審問を受けているとき、不安な心でイエス様を知らないと三回も否認したペテロが、聖霊充満になり神様の恵みが臨み、素晴らしく変わりました。
第六、神様を仕え、一生懸命に献身奉仕するようになることも神様の恵みであります。教会で務めに任じられて献身できることも、すべて神様の恵みが臨んでいるからです。
第七、神様の御言葉を読んで聞くとき、それを悟らして下さることも神様の恵みです。礼拝の中でメッセージを聞くとき、喜びと感動によって御言葉を受け止めることは神様の恵みが臨んたからのです。
最後に、恵まれるためにはどうすればいいのか、考えます。誰でもイエスキリストを信じると神様が与えて下さる恵みを悟り理解するようになります。多様で豊かな恵みを味わうことができます。神様の恵みは上から下へ流れる水のようであるため、謙遜な心をもつべきです。恵みはあるで光のように開いているカーテンから光が入ってくるように、心は開いて口は閉めるべきです。その口は悔い改めの口、賛美の口、祈りの口、信仰告白の口であります。神様の恵みを止めると、まるで流れている電流が止まるようになるため、恵みの流れを止める要素を除去するべきです。欲、我執、偏見がその要素です。受けた恵みを大事にするために聖徒たちの集まりに積極的に参加するべきです。礼拝のため、聖書勉強のため、祈るために集まって献身奉仕し、伝道のために力を合わせるべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

時をよく用いなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人の平均寿命は医療技術の発達と十分な栄養を取りながらますます増加しました。伝染病予防に対する知識と技術が発展して、各種抗生剤と薬などが製造されて手術方法の発展などによって人間の寿命はずっと増加の成り行きです。しかし老けるのと死を阻む方法はないです。

『人生の年月は七十年程のものです。健やかな人が八十年を数えても得るところは労苦と災いにすぎません。瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。
御怒りの力を誰が知りえましょうか。あなたを畏れ敬うにつれて／あなたの憤りをも知ることでしょう。生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように。』（詩篇９０：１０−１２）

過ぎ去った歳月を取り戻す方法はないです。現在という瞬間をよく活用しなければなりません。
歳月をよく活用しなければならない理由は人が永遠の命を得るからです。
死と言うのは肉身と魂の分離を言います。死んだ後は審判があります。各自がこの世から行った仕事について受けます。不信者は地獄に投げられる刑罰審判を受けます。聖徒たちは行った仕事について審判を受けます。これは聖書に啓示された神様のお話です。

『また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、』（ヘブライ９：２７）

『なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。』（コリント後５；１０）

『わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。』（黙示録２０：12）

『不正を行う者には、なお不正を行わせ、汚れた者は、なお汚れるままにしておけ。正しい者には、なお正しいことを行わせ、聖なる者は、なお聖なる者とならせよ。＼見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。 』（黙示録２２：１１−１２）

人がこの世に生きる間に神とどんな関係で生きたのかは死んだ後の運命を左右します。だから与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにする機会にしなければなりません。皆さんに与えられた歳月が神様との関係を深くして豊かにさせる機会になるためには心に留め置いて実践しなければならないことを三つに整理して説明します。

第一、皆さんが持ったのを福音伝えと神を仕えて奉事するために使ってください。

皆さんが持ったものを他人が救いを得るように使えば、それが自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。

『時をよく用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。 』（コロサイ４：５）

＜外部の人＞とはキリストの外にいる人々を意味します。
聖徒たちがこの世の中で住んでいる以上には外部の人との接触を避けられません。避ける理由もないです。聖徒は霊的の身分と地位と所属が不信者とは完全に違います。ところがこの世の中で住む間には不信者たちと共に活動しなければなりません。
『外部の人に対して賢くふるまいなさい。』お話は外部の人に荒されて信仰に損傷を被る事がないように賢く対処しなさいという意味です。外部の人を変化させるどころか外部の人に影響を受けて信仰の変質されないように警戒心を持たなければなりません。
それで外部の人を向って『時をよく用いなさい』としました。積極的に努力して『外部の人をキリストの中へ導きなさい』と言う意味です。
外部の人をキリスト中に導くために皆さんが持ったのを適切に使ってください。これのために使うのは無駄使いではありません。一生はしばらく過ぎ去ります。元気で力強くて能力のある時、外部の人をキリストの前に導くため力尽くしてください。そうすれば、それが自分に与えられた歳月を神様との関係を発展する機会になります。
そして自分が持ったことを使って他の信者が神様をよく仕えるようにしてください。そうすれば自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。
教会堂を建立し、教会の各種組職に参加して奉事することも積極的に参加してください。教会学校教師になってください。区域長になって他の聖徒の信仰成長のために教えて下さい。
聖歌隊と各宣教部署と奉仕部署に加入して活動してください。
そんなにすれば、自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。

第二、世の中で苦難にあう時、苦難の日々を浪費せずに賢く活用しなければなりません。

つらさと難しさを苦難と言います。人が生きて行きながらつらくて難しい事を全然経験しないで生きて行ける道はありません。苦難を経験しないで暮す人は全然いないです。だから苦難を忌避しようと思う必要はないです。苦難に堂堂と対立しなければなりません。
多様な苦難にあう時〈苦難を賢く対処して活用するので苦難の日々を有益にさせよう〉と思う考えを持つべきです。

第一、苦難を信仰の鍛えの道具にしなければなりません。そうすれば苦難が自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。苦難は信仰を鍛える道具と過程になります。

第二、苦難にあえば神の助けを切に求めてください。そうすれば苦難が自分に与えられた歳月を神との関係を深くして豊かにさせる機会になります。
苦難あう時当面した問題を神へ持ち込んで下さい。問題を神へ持ち込む最善の方法が祈りです。
苦難によって神にしばしば祈って、多くの時間を祈る人は自分に与えられた歳月を神との関係を深くして豊かにさせる機会になります。

第三、苦難にあっても神様を相変わらず愛する人は、自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。
ヘブライ三青年、サドラック、メサック、アベヌゴとダニエルは命を奪われる危機に会っても信仰の切開を曲げない堂々な態度を見せました。
このように命を懸ける苦難に比べれば、何でもない苦難に直面して信仰が揺れて奉事をやめたらまことに恥かしい事です。
聖徒の皆さんは苦難に直面しても相変わらず神様を愛して忠実に仕えてください。

第四、主様によって喜んで感謝しなければなりません。
皆さんにも不平を言う用事ができたらこんなに言ってください。〈感謝することを先に感謝して楽しんでから、次に不平を言って恨むようにしよう〉と。
もしそうしたら死ぬ日まで神様に不平を言って恨む時間を得なくなるでしょう。神様が私たちに施した愛と恵みをすべて数えることができる人はいないからです。

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』（ヨハネ３：１６）

ここに『世を愛された』としまして『お与えになったほど』はどのくらいを意味するか十分に説明できる人はいません。『お与えになったほど』と言う一言には宇宙を皆、入れても満たされない広さと長さと高さと深さがあります。
だから聖徒たちは神様によって楽しがる事が無限です。神様によって感謝することも無限です。

『いちじくの木に花は咲かず／ぶどうの枝は実をつけず／オリーブは収穫の期待を裏切り／田畑は食物を生ぜず／羊はおりから断たれ／牛舎には牛がいなくなる。
しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。』（ハバクグ３；１７−１８）

神様によって楽しがって感謝する人は、自分に与えられた歳月を神様との関係を深くして豊かにさせる機会になります。
イエス.キリストを信じる者でなければ、彼に与えられた歳月を貴い機会になる方法がないです。死んだ後に滅亡される人は世の中で彼が何の事をしたといっても、死後の世界では何の意味や価値を捜すことができないです。
愛する聖徒の皆さんは自分に与えられた一生という歳月を貴重な機会にさせることができます。神様との関係を深くして豊かに発展させて行く機会にすることができます。
皆さんが持ったものなどを福音を伝えと神様を仕えて奉事するために使ってください。
世を生きながら苦難にあう時、苦難を信仰を鍛える道具にしてください。神様に助けを切に求めてください。相変わらず神様を愛してください。
神によって喜んで感謝する生活を行ってください。
そして皆さんに与えられた歳月が神様との関係を深くして豊かに発展させて行く機会になることを祝福し祈ります。アーメン